

とぎには、

辛口

1

松本道介



まつもと・みちすけ
文学部教授(独文学)。
学友会水泳部長。傍
ら文芸評論家として
『文学界』『季刊文科』
などに連載執筆。近著
『視点』(巴書林刊)
は新聞紙誌の書評
でも話題をよんだ。
1935年、北海道生まれ。

◆ 学生を待ちながら

今から十年ほど前まで、卒業式のあとには
謝恩会なるものがおこなわれた。幹事役の学
生が都心の高いホテルでセットしてくれるこ
ともよくあり、私は教師のひとりとしておお
いに恐縮したものだ。

1 時間半遅れのパーティー

ここ数年そうした催しは次第に下火になり、
教師の側も会費を出すパーティー形式に変
わってきた。その方が気楽だし、時代の流れ

にも沿っている感じだったが、今年あたりは
卒業パーティーもなくなりそうな気配だった。
従来はおそくとも卒業式の二、三日前まで
に、当日の夕方何時からどこでパーティーを
やりたいといった連絡が入ったのに、今年
卒業式の当日になってもなんの話もない。
ついに今年はないのかなあと思っていたら、
各専攻にわかれておこなわれる午後の証書授
与式が終わったところで、やっと話が出た。
立川の食いもの屋に六時から場所をとったの
で、よかつたら先生たちも、とのことだった。

ないと思ったパーティーがあるとなると、
やはり嬉しくて同僚七人がそろって、いそい
そとモノレールに乗って出かけた。われわれ
教師の世代は、何時にどこときめられると、
律儀に時間を気にしだす。当の食いもの屋も
初めての場所なので、地図のコピーを何度も
見なおした。

大きなビルの裏にある当の店もなんとか見
つかり、時間もまずはびったりでほっとした
ものの、かんじんの学生はひとりも来ていな
い。二十分、三十分と時間がたつてもあらわ
れないので、店でもまちがえたかと心配にな
りはじめた頃、やっと二、三人の学生が到着
し、女性が着物や袴の着がえに手間どつたり
しているから、三十分ほどおくれると言う。

われわれ教師もただ待っていてもしかた
ないと思い、ワインを一本注文して飲みはじ
めた。そうするうちに学生はぼつりぼつりと
集まり出し、全員四十人ほどがそろって乾杯
をしたのは七時半くらいだったろうか。最初
の集合時間から一時間半もおくれてしまった
わけだ。花束贈呈もスピーチもいっさいない
パーティーで、学生たちと飲みながら食べな
がらおしゃべりをしたり写真をとつたりする

うちに九時が来てしまい、あつけなくお開きとなった。店の方には六時―九時で予約していたためしかたがなかったにちがいない。

この上なくさばさばしたパーティーを終えてまず思い出したのは、ドイツの大学ですごした時期のことだった。ドイツの大学と言っても三十五年前の話である。

ドイツ体験を思い出す

当時私は若いながらドイツの大学で日本語の教師をつとめていた。初めてのドイツ滞在だったせいもあり、ドイツの大学と日本の大学はまったく違うと思った。一番違うのは徹底したゼメスター制であり、学生もたまたまあるゼメスターに、ある大学に聴講登録をした者同士という間柄である。おたがいひとりひとりであり、歓迎会だの送別会だのといったものはいっさいない。

二年間教師をつとめていて経験した唯一度のパーティーは、大御所ともいべき主任教授の主催したものであった。主催と言ってもワインを数本寄附しただけで会費制だったように記憶するし、スピーチのたぐいもまった

くなく、会が終わったら皆、じゃあと云って帰ってしまう。そのさばさばした感じが今年の卒業パーティーにそっくりだったので、はからずも三十五年前を思い出したのだった。

日本もまたヨーロッパなみの個人主義の国になってきたということだろう。個人主義というとおおげさかもしれないが、どの学生もひとりひとりになり、ひとりひとりが自分の都合で動くようになってきた。

なぜなのか。この数年大会社の倒産、合併、リストラがあいつぎ、学生たちはどこに就職しても定年までいられると思っていない。たよれるのは自分だけであることを漠然と感じているからだろう。

ケータイ片手にばらばらに

だがまた、私の偏見をまじえて言えば、ケータイの普及が日本の若者たちのあいだに個人主義を急速にひろめたと思われる。

今年の卒業パーティーでわれわれ教師は一時間半も待たされた。べつに立って待っていないわけではないから気にもしていないが、私

れてきたことである。

ケータイを持つ若者たちは仲間うちの集まりとなると遅刻など気にしていない。集まる場所がよくわからなくても平気である。すべてはケータイで連絡すれば片付くから一向に気にならない。

気にならない学生たちがそれぞれに遅刻して来た結果、パーティー全体の開始は一時間半遅れたのである。こんなことは若者同士のあいだで日常茶飯事起きているのだろうし、これはこれでいいのだろう。しかし、あまりあたりまえになると、仕事の上の待ち合わせに遅れることも平気になったりしないか。そんなことが教師としては気になる。

そう言えば個人主義先進国のドイツでも時間を守らない若者が多い。これはケータイの流行する少し前の話だが、日本の若者がベルリンで一人のドイツ人の若者と待ち合わせをした。日本の若者は時間通りに約束の場所へ行ったが相手は来っていない。二十分ほど待ってやっとドイツ人がやってきた。「やあ、おそくなってすまない」くらいの挨拶があるかと思いきや、当の若者は言ったそうだ――「君は早いねえ」